



## 2025年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年5月14日

上場会社名 株式会社enish 上場取引所 東  
コード番号 3667 URL <https://www.enish.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 安徳 孝平  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 (氏名) 魚屋 和彦 TEL 03(6447)4020  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年12月期第1四半期の業績（2025年1月1日～2025年3月31日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期第1四半期	674	△17.6	△146	—	△156	—	△158	—
2024年12月期第1四半期	819	△3.6	△182	—	△195	—	△196	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期第1四半期	△5.55	—
2024年12月期第1四半期	△9.11	—

(注) 2024年12月期第1四半期及び2025年12月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年12月期第1四半期	1,818	1,027	56.3	35.17
2024年12月期	1,760	889	50.3	32.99

(参考) 自己資本 2025年12月期第1四半期 1,023百万円 2024年12月期 885百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年12月期	—	—	—	—	—
2025年12月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無  
2025年12月期の配当予想につきましては、現在未定であります。

### 3. 2025年12月期の業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

2025年12月期の業績予想につきましては、現時点で合理的な業績予想の算定ができないことから記載しておりません。  
なお、当該理由等につきましては、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年12月期1Q	29,083,560株	2024年12月期	26,843,560株
② 期末自己株式数	2025年12月期1Q	674株	2024年12月期	674株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年12月期1Q	28,515,775株	2024年12月期1Q	21,547,105株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（1）経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第1四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	6
(セグメント情報等の注記) .....	7
(重要な後発事象) .....	7
3. その他 .....	8
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における我が国経済は、雇用や所得環境の改善により緩やかな回復傾向にある一方で、為替相場の変動や原材料価格の高騰による物価上昇などの影響により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような事業環境の中、当社は「Link with Fun」というスローガンのもと、「世界中にenishファンを作り出す」というミッションを掲げ、より多くのお客様に楽しんでいただける魅力的なサービスの提供に取り組んでおります。

既存タイトルについては、リリース14年目を迎えた「ぼくのレストラン2」および「ガルショ☆」は、コラボレーション施策などが好調に推移しており、引き続き当社の売上収益に大きく貢献しております。今後も運営施策の工夫により売上の通減を最小限に抑えるとともに、よりきめ細やかな対応を図り、ユーザーの皆様の満足度向上に努めてまいります。

リリース3周年を迎えた大人気作品『進撃の巨人』のスマートフォンゲーム「進撃の巨人 Brave Order」では、ゲーム内のさらなる活性化を図るため、新規ユーザーの獲得や既存ユーザーの呼び戻し施策、機能改善などを進めており、引き続き魅力的なイベント施策を展開しております。さらに、今後は、新機能の実装も予定しており、ユーザー体験の一層の向上を目指してまいります。

リリース5年目を迎えたアニメ『五等分の花嫁』初のスマートフォンゲーム「五等分の花嫁 五つ子ちゃんはパズルを五等分できない。」は、累計800万ダウンロードを突破し、当社の業績に貢献しております。イベント施策や書き下ろしイラストの充実などを通じて、引き続き収益への貢献を図ってまいります。

2024年8月にリリースされた、累計ダウンロード数900万突破のスマートフォン向けドラマチック共闘オンラインRPG「De:Lithe～忘却の真王と盟約の天使～」をベースとした、モバイルゲームクオリティのブロックチェーンゲーム「De:Lithe Last Memories (ディライズ ラストメモリーズ)」は、無数の敵を殲滅しながらダンジョンを進行するローグライトRPGです。一定の売上貢献はあったものの、今後の課題が明確となったため、さまざまなご意見やフィードバックを真摯に受け止め、改善を図りながら収益への寄与を目指してまいります。

コスト面においては、AI技術を活用した業務プロセスの効率化を社内で推進し、より生産的かつ持続可能な体制の構築を図っております。その結果、コスト適正化の取り組みが着実に成果を上げており、外注加工費や広告宣伝費の削減につながるなど、売上原価および販売費及び一般管理費の低減も引き続き実現されています。

なお、当社に対しては、株式会社HashPaletteより不当利得返還請求として176百万円の訴訟が提起されておりますが、今後、先方の主張及び請求内容を精査のうえ適切に対処してまいります。進捗に伴い、開示すべき事項が判明した場合には、速やかにお知らせいたします。

当事業年度においては、既存タイトルの効果的運営を推進するとともに、新作麻雀ゲーム「雀エボライブ」を2025年夏にリリース予定であることを発表いたしました。さらに、当社がこれまでに獲得したWeb3サービスに関するノウハウを活かしたゲームを含む、新規タイトルの開発に向けても人材を投入しております。引き続き有力IP案件を確保するなど、年1～2本ペースでの新規タイトルリリースを通じて、利益の積み上げと企業価値の向上を図ってまいります。

この結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高は674百万円（前年同四半期比17.6%の減少）、営業損失は146百万円（前年同四半期は182百万円の営業損失）、経常損失は156百万円（前年同四半期は195百万円の経常損失）、四半期純損失は158百万円（前年同四半期は196百万円の四半期純損失）となっております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末の流動資産につきましては、前事業年度末に比べて58百万円増加し、1,546百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加（前事業年度末比41百万円の増加）、売掛金の増加（前事業年度末比29百万円の増加）によるものであります。固定資産につきましては271百万円となりました。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べ57百万円増加し、1,818百万円となりました。

(負債)

当第1四半期会計期間末の流動負債につきましては、前事業年度末に比べて80百万円減少し、787百万円となりました。これは主に、買掛金の減少（前事業年度末比30百万円の減少）、未払金の減少（前事業年度末比27百万円の減少）によるものであります。固定負債につきましては3百万円となりました。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べ80百万円減少し、791百万円となりました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末の純資産につきましては、前事業年度末に比べて138百万円増加し、1,027百万円となりました。これは主に、四半期純損失を158百万円計上したものの、第三者割当による行使価額修正条項付第19回新株予約権の権利行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ147百万円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年12月期につきましては、既存タイトルの売上高の維持と効率的な運営体制の見直しを通じて収益力の強化を図ってまいります。また、売上収益の拡大を目的として、新規に年間1～2タイトルのリリースを進めていく方針です。

今後の新規タイトルにつきましては、新規開発に注力できる体制を構築・維持することで、開発の長期化や開発費の高騰など各種リスクの低減を図りつつ、高品質なタイトルの開発を推進してまいります。

業績予想につきましては、モバイルゲーム事業を取り巻く環境の変化が激しく、当社の業績も短期的に大きく変動する可能性があることなどから、信頼性の高い業績予想数値の算出が困難な状況にあります。このため、決算業績および事業の概況については速やかな開示に努める一方で、業績予想の開示は見合わせております。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2025年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	809,755	851,027
売掛金	434,635	464,011
前払費用	53,411	56,299
その他	190,674	175,619
流動資産合計	1,488,477	1,546,957
固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	40,659	40,659
関係会社株式	133,580	133,580
敷金及び保証金	94,160	94,160
その他	3,915	3,179
投資その他の資産合計	272,316	271,580
固定資産合計	272,316	271,580
資産合計	1,760,793	1,818,538
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	108,789	78,481
短期借入金	300,000	300,000
未払金	120,803	93,159
契約負債	276,589	277,509
その他	61,518	38,456
流動負債合計	867,701	787,607
固定負債		
その他	3,631	3,468
固定負債合計	3,631	3,468
負債合計	871,333	791,075
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,389,188	4,537,103
資本剰余金	4,388,187	4,536,103
利益剰余金	△7,891,488	△8,049,897
自己株式	△191	△191
株主資本合計	885,695	1,023,117
新株予約権	3,765	4,344
純資産合計	889,460	1,027,462
負債純資産合計	1,760,793	1,818,538

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
売上高	819,187	674,528
売上原価	832,418	681,972
売上総損失(△)	△13,230	△7,443
販売費及び一般管理費	169,607	139,475
営業損失(△)	△182,837	△146,919
営業外収益		
受取利息	51	1,872
過年度消費税等	6,000	—
その他	169	46
営業外収益合計	6,221	1,918
営業外費用		
支払利息	15,761	8,011
株式交付費	190	1,323
その他	2,867	2,091
営業外費用合計	18,818	11,425
経常損失(△)	△195,434	△156,426
特別損失		
特別退職金	—	967
特別損失合計	—	967
税引前四半期純損失(△)	△195,434	△157,393
法人税、住民税及び事業税	950	1,015
法人税等合計	950	1,015
四半期純損失(△)	△196,385	△158,409

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

## (継続企業の前提に関する注記)

当社は、前事業年度まで10期連続となる営業損失及び11期連続となるマイナスの営業キャッシュ・フローを計上しており、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社は、当該事象又は状況を解消し事業基盤及び財務基盤の安定化を実現するために、以下の対応策を講じております。

## ①事業基盤の安定化

徹底的なコスト削減や、事業の選択と集中により、事業基盤の安定化を図ってまいります。具体的には、既存タイトルについては、各タイトルの収益状況に応じた人員配置を行うなど運営体制の見直しを継続的に行うことによりコスト削減を図るほか、その中においても収益が見込めない既存タイトルについては、それらの事業譲渡・配信終了も視野に対応する方針であります。また、他社IPタイトルとのコラボレーションを実施するなど、他社IPの協力を得ることによりユーザーのログイン回数や滞在時間の増加を図り、売上収益の拡大を進めてまいります。今後の新規タイトルにつきましては、新規開発に注力できる体制を構築・維持することで、高品質なタイトルの開発を推進いたします。人員体制及び協力企業の制力作・技術力を踏まえ、過去事例を参考に慎重に工数を見積もることで、開発スケジュールの遅延等による開発費の増加が生じないよう努めてまいります。また、IPの価値と経済条件を踏まえ収益性が高く見込まれるタイトルに対して優先的に開発・運営人員を配置することにより、当社の収益改善を図ってまいります。

## ②財務基盤の安定化

財務面につきましては、財務基盤の安定化のため、複数社の取引金融機関や協業先と良好な関係性を築いており、引き続き協力を頂くための協議を進めております。なお、2025年1月10日付で発行した第三者割当による行使価額修正条項付第19回新株予約権が2025年3月31日までに22,400個行使された結果、295,540千円の資金調達をしており、財務基盤の安定化が図られております。売上高やコスト等の会社状況を注視し、必要に応じてすみやかな各種対応策の実行をしてまいります。

上記の対応策を講じていくとしても、既存タイトルの売上動向、新規タイトルの売上見込及び運営タイトルの各種コスト削減については将来の予測を含んでおり、引き続き業績の回復状況を慎重に見極める必要があることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期財務諸表に反映しておりません。

## (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当第1四半期累計期間において、新株予約権の行使に伴い新株式2,240,000株の発行を行いました。この結果、当第1四半期累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ147,915千円増加し、当第1四半期会計期間末において資本金が4,537,103千円、資本準備金が4,536,103千円となっております。

## (四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1半期累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
減価償却費	991千円	—

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社は、エンターテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

(第19回新株予約権の行使による増資)

当第1四半期累計期間終了後、2025年4月30日までに第三者割当による行使価額修正条項付第19回新株予約権の一部が行使されております。その概要は以下のとおりです。

①行使された新株予約権の行使個数		21,750個
②発行した種類及び株式数	普通株式	2,175,000株
③行使価額の総額		210,700千円
④資本金増加額		105,350千円
⑤資本剰余金増加額		105,350千円

上記の結果、2025年4月30日現在の普通株式の発行済株式総数は31,258,560株、資本金は4,642,595千円、資本剰余金は4,641,594千円となっております。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度まで10期連続となる営業損失及び11期連続となるマイナスの営業キャッシュ・フローを計上しており、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

なお、詳細につきましては、「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(継続企業の前提に関する注記)」に記載しております。